

令和6(2024)年度事業計画 点検・評価

		P 事業計画	D 実行 / C 点検・評価		A 今後の改善方策等
			評価	進捗状況	
重点事業など	1 ・ 質保証システムの確立	(1) 現状のディプロマ・ポリシーをベースに、客観的な評価が理解しやすく、理念・目的に照らし合わせたディプロマ・ポリシーを令和7年度に向けて再構築する。	△	令和6年8月1日（木）の質保証協議会にて、共通教育開発会議設置準備室との調整しながら進めることでスケジュールが当初予定よりも遅れる旨の説明があり、審議の結果、異議なく承認された。	共通教育開発会議設置準備室の結果を基にディプロマ・ポリシーの改正を進めていく。
		(2) 「今後の入学者の在り方を検討する会」からの答申を基に、高等学校新教育課程や定員増、APや初年次教育との関係を踏まえ、令和8年度からの実施に向け、入学者選抜試験制度を検討する。	△	総合選抜入試（1期）（2期）体験授業の新メニュー「立体構成～紙コップによる造形～」を実施し、（1期）（2期）を合わせて9名の受験者だった。2024年度は3名、2023年度は1名の受験者だったため、一定の効果が得られた。外国人留学生対象の入学試験については志願者が年内入試では昨年より-3名。日本人志願者については昨年より-16名。今年度は一般入試も外国人留学生が出願可能なため留学生志願者は増加する予定だが、令和8年度からの定員増を見越し志願者を増加させるには、次年度に向けて更なる入学試験制度の改善が必要である。	次年度中に新たな減免入試などの検討を行う。
		(3) 令和4年度より運用を始めた新学事システム（AAA）の運用サイクルの構築とそれに合わせたガイダンス内容・日程・公開情報の検討を行い、令和6年度から実施する。	○	令和6年度より専門科目の通年登録やそれに合わせたガイダンスや履修指導を実施。今年度のガイダンス内容等をもとに次年度のガイダンス内容を教学委員会で検討予定。	検討したガイダンス内容を着実に実施する。
		(4) 令和4年実施の1年次の進級判定や令和5年度実施の授業出席状況の共有に伴い、履修指導や就学支援方法の検討を行い新たな履修指導を実施し、令和4年度実績で4.1%であった離学率を令和7年度以降減少させる。	○	教学委員会で、学生の学習状況を把握し効果的な支援を行うため、単位修得率や出欠登録状況の情報共有。連続して欠席している学生に対しては、該当する学生に対して随時連絡を取り、必要に応じて面談を実施しています。	次年度以降も継続して実施。
		(5) 令和6年度より改定された大学入門、キャリアデザイン概論の検証とファウンデーション実習、芸術基礎科目、学部共通受講指定科目と領域受講指定科目の接続について、令和7年度からの実施に向け、検討を行う。	○	基礎造形実習とファウンデーション実習の在り方を検討。12月初年次教育検討委員会で作成した報告書で運営協議会に報告済み。	令和7年度に、ファウンデーション実習Aと芸術基礎科目を見直す。
	2 ・ 教育・研究の高度化、先鋭	(1) イラストレーション領域の授業環境を更に充実させるための整備を図るとともに、同領域のショールームを整備し、教育効果を高め、入学者募集力を強化し、同領域のブランド化を推進する。	○	イラストレーション領域に協力を依頼し、ショールームの場所を変更し、作品サンプルやカリキュラム説明のコンテンツを増やす整備を行った。オープンキャンパスなどでは、展示スペースを拡張することが可能になり、より充実したプレゼンテーションが可能になった。また今年度より、他部署の専任職員を中心に高大連携や大学見学会におけるキャンパスツアーを協力してもらう様な体制構築を行なった。それに伴い、全領域のショールームの展示内容を紹介する動画を作成し、スタッフ間で共有することで、領域への理解度や、それを伝えるためのスキルアップを図った。	オープンキャンパスや高大連携、大学見学時など多様な場面でショールームを有効に活用。
		(2) 学生の研究活動支援「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成）」、学生の主体的な地域活動支援「seianチャレンジ」を推進していく。	○	研究活動の活性化を目指す「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成）」については、応募が18件うち採択が5件。「seianチャレンジ」については5件が採択され、実施している。	実施から3年、多くの成果が生まれたが、学生からの聞き取りなどを行い、より良い実施ができるよう業務の見直しを検討する。
		(3) 研究活動の活性化について検討を行うとともに、特別研究助成の募集体制の強化を推進する。	○	特別研究助成は2件採択。研究活動の活性化を目指し、大学紀要の投稿増に向けての取り組みを実施中。	教員研究活動の活性化について調査を行い、令和6年度中に研究活動運営委員会で検討する。
	3 ・ 「就職に強い芸術大学」の評価確立	(1) キャリアサポートセンター長を中心に、令和7年度からの実施に向け、今後のキャリアサポートセンターのあり方を検討する。	○	キャリアデザイン科目とキャリアサポートセンターでの支援をトータルで管理運営することを目的に、共通教育センター内に配置されていたキャリア科目と事務組織内に配置されていたキャリアサポートセンター事務課を、令和7年度より「キャリアサポートセンター」として独立させることが決定された。	今後益々、教職協働を強化し、一人ひとりの学生の希望進路が叶えられるよう、キャリア支援の充実を図る。
		(2) 学生にとってわかりやすいキャリアデザイン科目となるよう再構築し、実施する。	○	時代の変化、就活の変化に対応できるよう、キャリアデザイン科目の内容を都度変化させ、その時に必要な知識や情報を提供できるよう、キャリアデザイン科目の構築を図る。令和7年度からはインターンシップや採用選考の場で必要となる筆記試験対策の授業を再び開講すること。また、2年生科目の構成や内容を見直し、前期は自己分析を中心に行い、後期は企業や企業人との交流を多く持てる授業内容に変更する。	再構築したキャリアデザイン科目を実施の上、学生の状況や就職活動の変化などを踏まえ、定期的に見直す。
		(3) キャリアデザイン科目とキャリアサポートセンターとの連携強化を図る。	○	1年生から3年生までのキャリアデザイン科目の運営に関わり、それぞれの学年の傾向や個人の状況を把握できる機会を得られたことから、状況に合ったキャリアサポート支援を提供することができている。（別紙 就活サポート講座一覧参照）	次年度よりキャリアデザイン科目とキャリアサポート事業を一元的に運営するキャリアサポートセンターを設置し運営を開始。
		(4) 早期から、就職や進路に対する意識を醸成するため、2年生対象のショート面談を開始する。	○	2024年度は、10月7日（月）～25日（金）で実施。237名中112名が面談を受けたが、125名は未実施。	次年度は周知を強化し、面談率をアップさせたい。

重点事業など	4 ・グローバル化、多様化の推進と対応	(1) 既存の学生会組織の活動について在り方について検討する。	△	現在の学生会執行部に対して、執行部役員の新たな任期制度の提案を予定しています。	新たな任期制度による運営。
		(2) 学内奨学金の在り方について再検討を行うとともに、入学後の給付型奨学金や授業料減免制度の在り方について検討を行い、経済的理由による離学者を減少させる。	×	令和7年度からはこの多子世帯への支援がさらに拡充される予定ですが、手続きなどの詳細が未定のため詳細が決定次第、再度支援体制について検討継続。	継続実施
		(3) 芸術分野の裾野を広げるために、中学生を対象とするオープンキャンパスを実施する。	○	8/3に実施。約30名の中学生の参加がありワークショップなどを実施。	次年度は、早期募集対策と位置づけ、入学広報課を中心に実施予定。教育連携推進センターはワークショップ実施と卒業生（中学教員）への働きかけは継続。参加数が左右する日程の変更などを行い、実施する。
		(4) 外国人留学生の日本語能力向上と卒業までに日本語能力試験の資格取得を促進するため、日本語課外講座を実施するとともに、日本語能力試験受験料助成制度について、令和7年度からの実施に向け、検討する。	△	株式会社アルクエデュケーションと提携し、日本語能力試験対策用の課外講座を試験的に開講。次年度からの本格実施に向けてアンケートをとともに助成制度や授業内容や実施時期、適正人数等の再検討を行う予定。	再検討した内容を実施予定
	5 ・卒業生との連携強化	(1) 新たな同窓会との連携事業として、卒業生によるキャリア科目の実施をする。	○	【1年生】後期「キャリアデザイン概論2」①10/14(月)1997年3月写真コース卒業の岡力様、②10/28(月)2013年3月グラフィックデザインコース卒業の森岡大貴様 【2年生】前期「キャリアデザイン論」③5/20(火)、5/27(火)、6/3(火)、7/15(火)2016年3月イラストレーション領域卒業三小田ひかり様、④7/8(火)メディアデザイン領域卒業神田遥香様 後期「キャリアデザイン特論B」⑤10/22(火)2013年3月イラストレーション領域卒業梅本聡美様、⑥11/5(火)2007年3月彫刻コース大村大悟様、⑦2006年3月洋画コース藤井俊治様 上記の方々に授業内講師をご担当いただいた。それぞれの授業を受けた学生にとっては、卒業後の自分を考えるきっかけとなり、働くことや制作を続けることのイメージを持つことができた。	次年度も引き続き実施予定。
		(2) リニューアルした同窓会ホームページを活用しながら、キャンパス以外での交流会を実施する。	○	【2024年10月26日（土）17：50～20：00】東京駅八重洲口すぐの大丸東京店13階「XEX TOKYO（ゼックストウキョウ）」において、成安造形大学同窓会の公式としては初となる東京成安同窓会 公式懇親会「開学30周年を東京で祝おう会」を開催。 当日は、小寄善通学長をはじめ小林はくどう先生、金澤徹先生、辻喜代治先生、千速敏男先生、高野匡事務局長にお越しいただいた。また、遠方にも関わらずなんと80名もの卒業生に参加していただき、しかも新潟や福島から遥々来てくださった方もいて、とても盛り上がる事ができた。	これを機会に、30年先の成安と卒業生の発展を目指し世代を超えて親睦を図りネットワークを広げていきたい。
	6 ・地域連携の深化	(1) 滋賀県および京都府の関係団体、地元企業を招き、本学の教育・研究内容や学生の学修成果などプレゼンテーションする企業向け大学説明会については、規模の拡大を目指す。	○	R6年9月3日に中小企業団体滋賀大会懇親会（大津プリンスホテル）において学生による連携事業の発表と大学説明会を実施。また大津商工会議所のセミナーへの参加するなど積極的な連携に努めた。	次年度、地元企業向けのフォーラムを実施予定。これまでの連携事業の成果報告を目的とする。
		(2) 「コミュニティスペース結」におけるアートエリアについて、実験的な運用を続け、コミュニティスペースとしての従来の目的を遂行する。また、学生有志による大学と地域の交流を育む事を目指した「Yui Lab」の活動についても成果を振り返り、更なる効果的なイベントを計画、実施する。	○	「コミュニティスペース結」におけるアートエリアについて、目的を遂行するための運用ルールを構築することができた。また、学生有志による大学と地域の交流を育む事を目指した「Yui Lab」の活動もメンバー19名が実施別に3チームに分かれ、多様なイベントを実施した。企画イベントの実施は7件、参加者はのべ約250名となった。また、学生作品の販売実施についての検討をスタート。次年度実施を目指す。	「Yui Lab」の活動について来年度からは予算化し、恒常的な実施を目指す。
		(3) 地域における「キャンパスが美術館」の認知度向上を図るため、「博物館相当施設」の登録完了を目指し、地域の公的施設とも連携を進める。	○	地域の公的施設への見学、訪問を積極的に実施。「博物館相当施設」の登録完了については、規程の変更や提出書類の作成を実施。また収蔵作品の目録作成の調査も進めている。学生が主体的に展覧会業務に関われるよう募集したミュージアムメンバー（初年度メンバー34名）も稼働をスタートした。	新校舎建築等に伴うキャンパスが美術館のギャラリースペースの変更も加味し、令和7年度中に「博物館相当施設」実地調査が実施できるよう準備を行う。
		(4) 令和6年4月27日に近江学研究所15周年イベント「近江学の日」を実施する。	○	令和6年4月27日に近江学研究所15周年イベント「近江学の日」として、内田樹氏による特別公開講座（参加者134名）、MUSUBU地図の展示とギャラリーツアー（参加者124名）、大津絵のワークショップ（参加者23名）などを実施した。	近江学の魅力を広く発信するため、会員組織の「近江学フォーラム」の事業内容や運営方法を見直す。

重点事業など	7 ・財務体質強化と体制整備	(1) 入試執行の効率化とミス防止、志願者の利便性向上を図るため、インターネット出願システムを導入する。	○	インターネット出願システムを導入したことで、印刷物の作成・出願可通知の発送、データ入力・確認作業・電話での連絡などのコストを削減することができた。また受験生の出願や入学手続きの利便性を向上することができた。	一部入試システムとの互換性がうまくいかず、次年度に改修が必要な部分があったため改善する。
		(2) 本学ウェブサイト上での領域紹介や紙媒体からの移行など積極的なデジタルコンテンツを利用した募集活動の構築を行う。	○	今年度においては、WEBサイトと広告などとを組み合わせた計画の立案と、今後のWEBサイトの改修やコンテンツ追加の計画を行なった。（現在進行中）またWEBサイトの閲覧状況と、資料請求やイベント申し込みの関係を分析できるようにサイトの改修を行なった。次年度に向けて接触者管理システムの見直しを図り、進研アド「GMS」からマイナビ「アクセスオンライン」に変更することに決定した。システム導入により、LINEとの連携などを行え、今後の間接広報を強化を図る。	今年度立てた計画を基に、間接広報の体制を構築する。
		(3) 学内で実施するオープンキャンパスや連携授業などへの参加促進のため、団体バス動員のプロモーションを強化する。	○	今年度はオープンキャンパスなどの大学体験イベントに18台（昨年度17台）、高大連携授業に10台（昨年度8台）の団体バスツアーを実施した。オープンキャンパス4回分の団体バス合計来場者数は264名（昨年度222名）	学内へ導引することは、高校生に本学の雰囲気を感じてもらうには最適の機会であり、次年度以降も強化する。
		(4) 昨年導入した人事管理システムを活用し、さらに人事関連書類のペーパーレス化を進める。	○	■雇用契約および入社手続き 往復する郵送費のみならず、作業時間の大幅な軽減、契約者の負担軽減、保管場所の削減、書類整理業務の削減等ができました。 ○ ■年末調整 年末調整をデジタル化することで、無駄なやりとりの削減（質疑対応の減少、自動化による回収業務が軽減）、煩雑な作業を削減（ペーパーレス、住宅ローン控除申告書のオンライン化）、確認にかかる工数の削減（データ上でのやり取り）をし、業務を効率化できました。	導入作業で生じたデータの整理と、入力後のデータ同士の差異を調整する作業が必要になる。また、システム導入で定形化したとは言え、担当者が変わったとしても作業が進められる「マニュアル化」を進めていく必要がある。
		(5) 外部資金の獲得に向け、本館棟昇降機の設置に際し、私立学校等施設整備費補助金を申請する。	△	12月7日（土）の理事会にて、現時点では補助金の募集はないものの国が予算の補正を組む可能性があり、本年度内に補助金の募集があれば第3次補正予算を編成して対応したい旨を伝えた。	補助金募集があり次第、情報を理事会へ上申する。
		(6) 学費について、他大学等の動向や家計環境などを調査する。	○	経営戦略室で調査。令和8年度授業料については据え置き予定。	定期的に調査し、他大学の状況や本学の財務状況等を踏まえ、見直しを検討。